

# 定期作況報告

平成22年7月  
(7月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

6月下旬：最高気温、最低気温、平均気温は、ともに平年より極めて高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比263%）。日照時間は平年より多かった（平年比146%）。

7月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年より極めて高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比206%）。日照時間は平年より少なかった（平年比27%）

7月中旬：最高気温は平年より高く、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年並であった（平年比103%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比140%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温が極めて高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

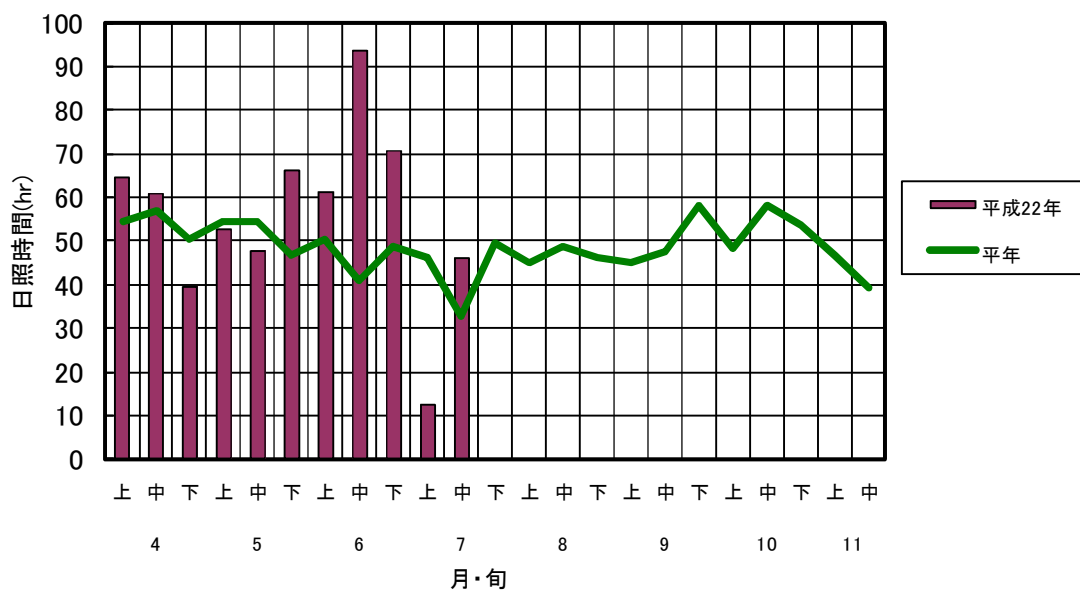
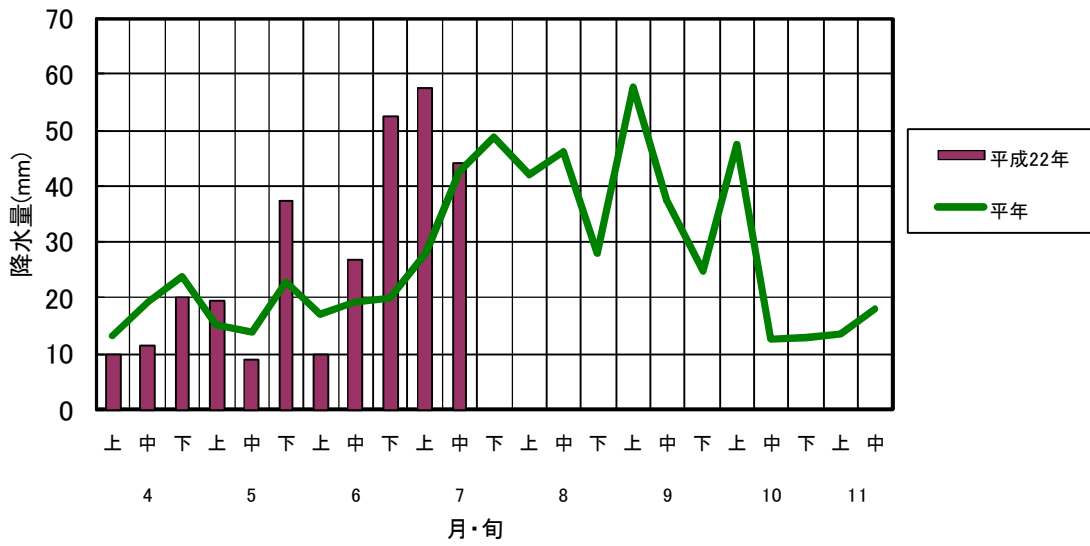
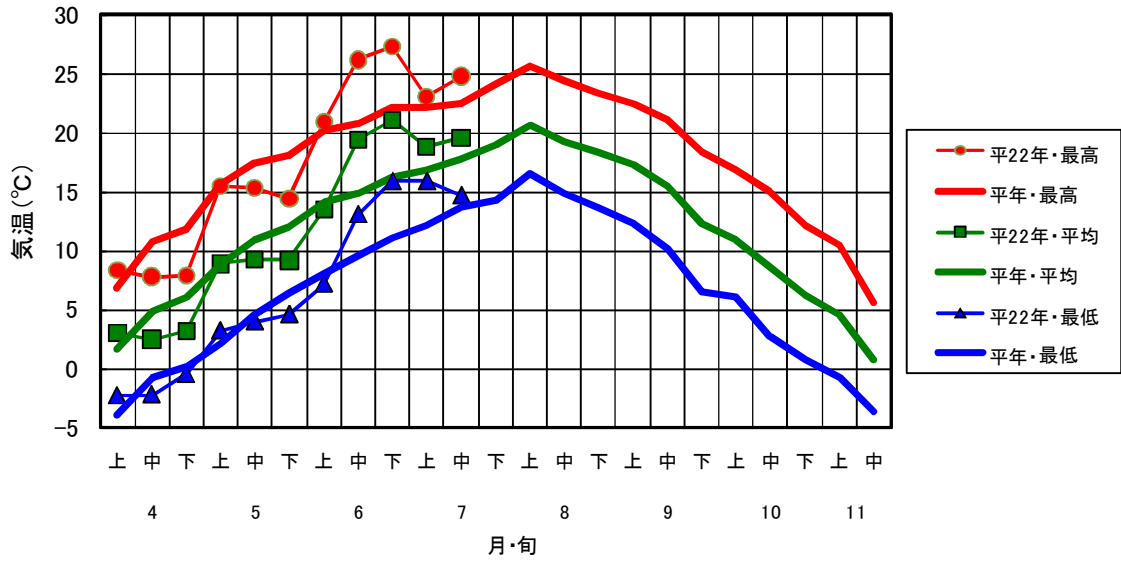
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	21.1	16.2	4.9	27.3	22.2	5.1	15.9	11.1	4.8
7月上旬	18.8	16.9	1.9	23.1	22.2	0.9	15.9	12.1	3.8
7月中旬	19.6	17.7	1.9	24.8	22.5	2.3	14.7	13.6	1.1

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	52.5	20.0	32.5	70.8	48.6	22.2
7月上旬	57.5	27.9	29.6	12.3	46.2	△ 33.9
7月中旬	44.0	42.6	1.4	45.9	32.8	13.1

注 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作況：平年並

事由：6月下旬～7月中旬の平均気温が平年より高く推移したことから生育は回復し、稈長、穂長はほぼ平年並みで穂数はやや多かった。登熟は順調に進み、倒伏は極めて軽微にとどまっている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (成熟期)	83	85	△2
穂長(cm) (成熟期)	8.7	8.3	0.4
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (成熟期)	782	716	66

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：6月中旬以降の高温により生育は回復し、出穂期はほぼ平年並であった。7月上中旬も気温は平年より高く推移したため、生育は順調に経過し、稈長・穂長・穂数とも平年並であった。「春よ恋」において倒伏がわずかに発生した。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月・日)	6.23	6.23	0	6.22	6.23	△1
稈長(cm) (7月20日)	83	81	2	86	86	0
穂長(cm) (7月20日)	8.5	8.2	0.3	8.5	8.3	0.2
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	484	504	△20	521	497	24

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

### 3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや良

事 由 : 6月下旬から7月中旬の気温が平年より高く推移したことから節間伸長が旺盛で、草丈は平年より約90cm高く、葉数は約1枚多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈 (cm) (7月20日)	233.1	146.0	87.1
葉数 (枚) (7月20日)	12.9	12.0	0.9

注) 平年値は前6か年の平均 (供試品種が変更されたため)。

### 4) 大 豆

作 況 : 良

事 由 : 6月下旬～7月中旬の平均気温が高かったため、生育は前月からさらに進み、開花始は平年より7日早かった。7月上旬の日照時間が少なかったため、徒長気味であるが、主茎長、本葉数、分枝数はいずれも平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.13	7.20	△ 7	7.13	7.20	△ 7
主茎長 (cm) (7月20日)	62.0	43.3	18.7	57.4	42.3	15.1
本葉数 (枚) (7月20日)	8.5	6.5	2.0	7.9	6.4	1.5
分枝数 (本/株) (7月20日)	5.7	3.1	2.6	4.9	2.7	2.2

注) 平年値は前7か年中、平成17年 (最豊)、21年 (最凶)を除く5か年の平均。

5) 小豆 作況：良

事由：6月下旬～7月中旬の平均気温が高かったため、生育は前月からさらに進み、開花始は平年より6日早かった。主茎長、本葉数、分枝数はいずれも平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.18	7.24	△ 6	7.20	7.26	△ 6
主茎長(cm) (7月20日)	31.2	14.6	16.6	27.0	15.3	11.7
本葉数(枚) (7月20日)	8.5	5.5	3.0	8.6	5.5	3.1
分枝数(本/株) (7月20日)	5.2	1.6	3.6	4.9	1.4	3.5

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆 作況：やや良

事由：6月下旬～7月中旬の平均気温が高かったため、生育は順調であった。開花始は平年より1日早かった。7月上旬の日照時間が少なかったため、徒長気味で、本葉数は平年をやや下回っているが、草丈、分枝数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.5	7.6	△ 1	7.7	7.8	△ 1
草丈(cm) (7月20日)	49.5	36.9	12.6	51.7	37.4	14.3
本葉数(枚) (7月20日)	3.0	3.4	△ 0.4	3.3	3.6	△ 0.3
分枝数(本/株) (7月20日)	5.3	4.1	1.2	6.1	3.9	2.2

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、21年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：6月下旬の著しい高温の影響を受け、開花期は「男爵薯」で4日、「コナフブキ」で2日平年より早かった。茎長は、6月下旬から7月中旬の高温と、多雨により土壌が常に湿潤状態だったことから、両品種とも平年を大きく上回ったが、地上部は徒長気味で旺盛な生育とは言えない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	6.26	6.30	△ 4	6.29	7.1	△ 2
茎長(cm) (7月20日)	66	42	24	88	64	24
茎数(本/株) (7月20日)	3.3	3.5	△ 0.2	2.9	3.1	△ 0.2

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：6月下旬～7月中旬の気温が高かったことから、草丈は急速に伸長した。地下部の肥大は順調に進み、移植栽培、直播栽培とも根重、根周は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	63.7	56.3	7.4	59.4	52.9	6.5	64.2	50.6	13.6
生葉数(枚) (7月20日)	21.7	21.3	0.4	22.2	20.4	1.8	20.3	19.4	0.9
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	850	687	163	876	671	205	720	500	220
根重 (g/個体) (7月20日)	296	275	21	357	282	75	154	130	24
根周(cm) (7月20日)	22.7	21.7	1.0	25.2	22.9	2.3	18.4	17.1	1.3

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 不良

事 由 : 1 番草の草丈は平年並であったが、生草収量と乾物率は平年を下回り、乾物収量は平年比84%と少なかった。これは萌芽期が平年より12日遅く、5月中下旬の気温が平年より低く推移し生育が遅れたことが影響したと考えられる。2 番草は、1 番草刈取り後の気温が平年より高く推移し、降水量にも恵まれたため、再生時の草丈は平年より高かった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
被度 (%)	2 番草再生時 (7/17)	100	100	0
出穂期	(月. 日)	6. 21	6. 19	2
刈取日	(月. 日)	6. 23	6. 20	3
倒伏程度	1 番草	1. 0	1. 5	△ 0. 5
草丈 (cm)	1 番草	101	102	△ 1
	2 番草再生時 (7/17)	45	35	10
生草収量 (kg/10a)	1 番草	2435	2582	△ 147
乾物率 (%)	1 番草	21. 5	24. 8	△ 3. 3
乾物収量 (kg/10a)	1 番草	525	625	△ 100
同上平年比 (%)	1 番草	84	100	△ 16

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

倒伏程度は、1:無または微~9:甚。



## 10) たまねぎ

作 況：やや良

事 由：6月下旬～7月中旬の気温は平年に比べて高く推移し、降水量は多かったことから生育は順調であった。「改良オホーツク1号」の球肥大期は平年並の7月7日であった。「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」とともに、草丈、生葉数、葉鞘径は概ね平年並であり、球生重は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.7	7.8	△1	-	7.22	-
草丈(cm) (7月20日)	74.2	75.1	△0.9	85.7	80.0	5.7
生葉数(枚) (7月20日)	9.1	9.2	△0.1	11.1	10.4	0.7
葉鞘径(mm) (7月20日)	18.9	19.7	△0.8	21.0	21.4	△0.4
葉身生重(g) (7月20日)	107.5	115.2	△7.7	159.7	129.5	30.2
球生重(g) (7月20日)	123.5	98.2	25.3	73.1	50.0	23.1

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)を除く5か年の平均。